

— 第4次 —
京田辺市
総合計画

◆
基本構想

第1 目指すまちの姿

1 理念

本市は、まちづくりの理念として、市民憲章を制定しており、第4次総合計画においても、その理念を踏襲するものとします。

京田辺市市民憲章

わたくしたちは、未来に向かって、明るく住みよい緑豊かなまちづくりを進めていくために、市民憲章を定めます。

わたくしたちは、自然環境をまもり、美しいまちづくりを進めます。

わたくしたちは、産業と生活をはぐくみ、快適な田園都市をめざします。

わたくしたちは、心のふれあう、健康で明るい福祉のまちを築きます。

わたくしたちは、歴史と文化を大切にし、心豊かな人づくりに努めます。

わたくしたちは、世界と手をつなぎ、力を合わせて平和なまちをつくります。

(昭和41年10月1日制定)

2 都市像

本市は、昭和59年(1984)に策定した「田辺町総合計画」で都市像を「緑豊かで健康な文化田園都市」に設定し、以後30年以上にわたり、一貫してこの都市像を目指したまちづくりを進めてきました。

第4次総合計画においても、引き続き、この都市像を目指して、美しい品格のあるまちづくりを進めていきます。



緑豊かで健康な文化田園都市

<都市像のイメージ>

- ・甘南備山や木津川の豊かな自然と田園風景に囲まれ、四季の移ろいを身近に感じながら、子どもから高齢者まで、だれもがいそいそと健康に暮らしているまち。
- ・京田辺の歴史文化や、関西文化学術研究都市から創造される新たな文化に触れながら暮らしているまち。
- ・大阪市や京都市などの大都市と鉄道や高速道路で便利に結ばれ、農業や工業、商業などの産業が活気にあふれ、だれもが充実したワーク・ライフ・バランス*を確立して暮らしているまち。

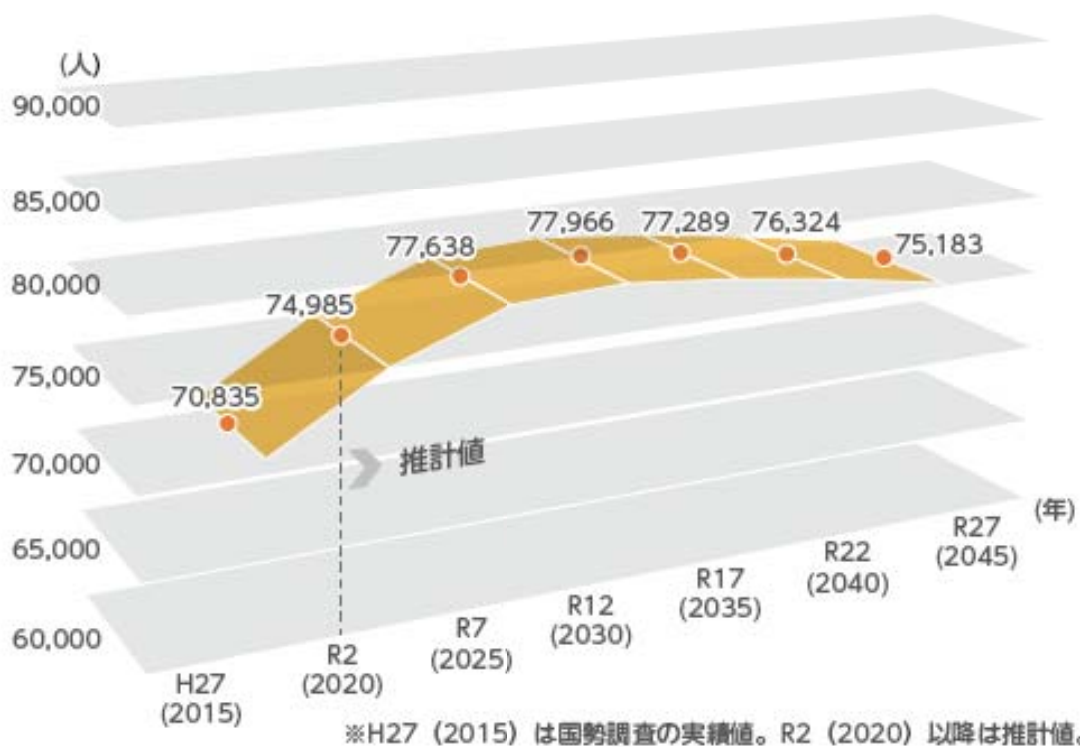
*『ワーク・ライフ・バランス』一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、多様な生き方が選択・実現できること

第2 将来人口

本市は、第3次総合計画において、人口フレームを80,000人としたまちづくりを進めてきました。

本計画の策定にあたり人口推計を行った結果、全国的に人口減少が進むなか、本市では、利便性の高さや子育て支援の充実などにより、市北部や南部で計画的に進められる住宅開発地などへ子育て世代を中心に転入が続き、今後も10年程度は人口が増加し、令和12年(2030)に約78,000人になると推計されます。

この推計結果を踏まえ、本計画期間(R2~R13)においても、人口フレーム80,000人のまちづくりを進めていくこととします。

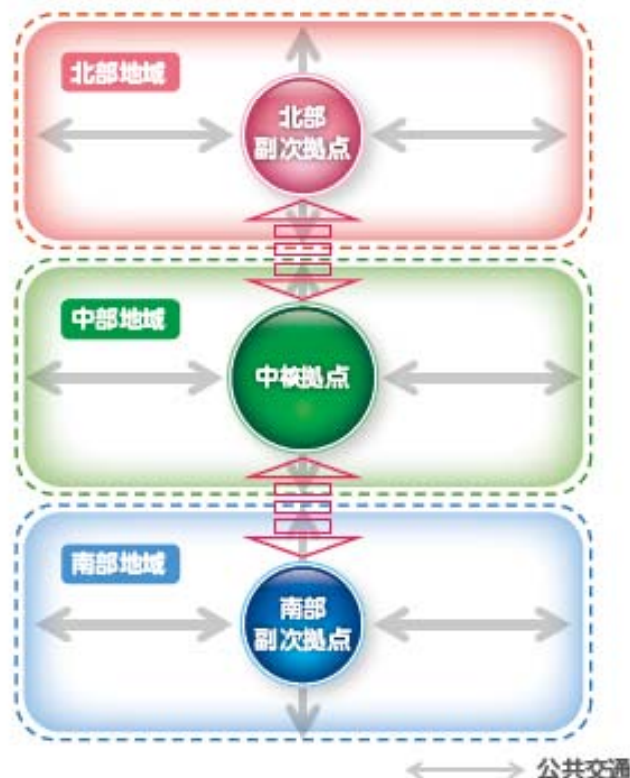


【将来人口推計結果】

第3 将来都市構造

1 都市構造の考え方

- ・都市像を実現する上で都市構造はその基礎となるものです。また、土地は限られた貴重な資源であり、将来に引き継ぐべき大切な資産であることから、第3次総合計画における都市構造の考え方を継承し、長期的な展望のもとに計画的な土地利用を進めます。
- ・本市の貴重な資源である甘南備山系などの自然や優良な農地の保全を図りながら、北部、中部、南部の3つの拠点による利便性の高いコンパクトな都市構造を形成するとともに、高速道路網を生かして工業・流通拠点の充実を図るなど、自然環境、人々の暮らし、都市機能が調和した土地利用を目指します。
- ・さらに、新名神高速道路の全線開通や将来的な北陸新幹線の新駅設置を見据え、人ともの大きな流れを呼び込むための取組みを進め、広域的な結節点としての発展を図ります。



【都市構造の考え方】

2 都市構造

都市構造は、以下のゾーン、拠点、軸の3つの要素で構成します。

■ ゾーン

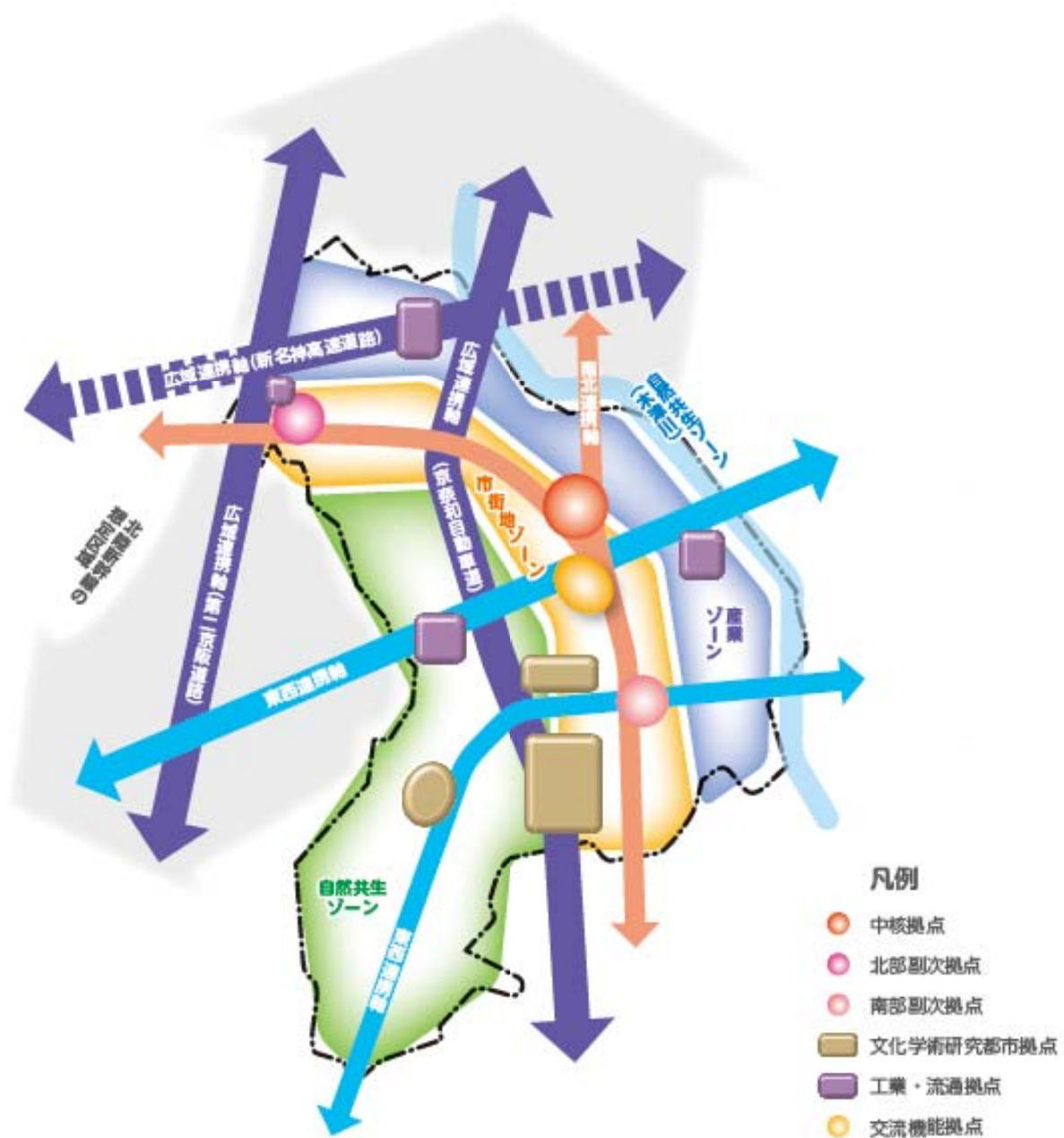
名称	内容
自然共生ゾーン	自然と共生した暮らしが営まれる地域の形成を図りつつ、自然環境や景観の保全の取組みを進めるとともに、健康づくり、レクリエーションを楽しめる空間づくりを進めます。
産業ゾーン	周辺環境や自然環境に配慮しながら、農地と工業地をバランス良く配置し、自然と産業が調和した土地利用を図ります。
市街地ゾーン	周辺の自然との調和や市街地内における自然の確保、ゆとりと魅力のある都市環境を形成し、住宅地や商業・業務地などがバランスよく配置されたコンパクトな都市構造の形成を図ります。 ゾーン内では、北部、中部、南部の各地域の拠点を中心とした都市構造を形成し、3つの拠点間は公共交通などを活用して連携するとともに、住宅地から各地域内の拠点へのアクセスの向上を図ることで、コンパクト+ネットワークの利便性の高い都市構造を目指します。

■ 拠点

名称	内容
中核拠点	近鉄新田辺駅及びJR京田辺駅周辺については、本市の中核的な拠点として、市の玄関口にふさわしい景観を形成し、広域的な観点に立った商業・業務・サービス機能や行政サービス・文化拠点機能などの集積と都市基盤の整備・充実を図ります。
北部副次拠点	JR松井山手駅周辺については、本市の副次的な拠点として、統一感のある魅力的な景観を形成し、市北部地域の市民生活を支える商業・業務・サービス機能などの集積を図ります。
南部副次拠点	近鉄三山木駅及びJR三山木駅周辺については、本市の副次的な拠点として、また関西文化学術研究都市の北の玄関口にふさわしい景観を形成し、市南部地域の市民生活を支える商業・業務・サービス機能などの集積を図ります。
文化学術研究都市拠点	関西文化学術研究都市にふさわしい景観を形成し、ゆとりのある住宅地、文化学術研究施設と自然環境が融合した土地利用を図ります。 今後、南田辺西・東地区において、基盤整備が進むと見込まれることから、同地区における文化学術研究施設の立地を促進します。
工業・流通拠点	京田辺松井IC工業地区、大住工業地区、田辺西工業地区、草内工業地区を工業・流通拠点とします。 広域幹線道路網の整備による利便性と北陸新幹線新駅設置のインパクトを生かし、周辺の自然や農地、集落などと調和した工業・流通機能の拡充を図りながら、集積を促進します。
交流機能拠点	京田辺市役所を核として、公共公益施設が集積する地区を交流機能拠点とします。 市域のほぼ中央部に位置する立地条件と山手幹線や国道307号などの交通機能を生かして、市民が集い、憩い、交流する場として機能の充実を図ります。

■ 軸

名称	内容
広域連携軸	第二京阪道路、京奈和自動車道と新名神高速道路を広域連携軸に位置づけ、京都、大阪、奈良、名古屋などの主要な都市との連携を促進します。
南北連携軸	近鉄及びJRの各鉄道、山手幹線を南北連携軸に位置づけ、北部、中部、南部の地域間の交流を支えるとともに、周辺地域(鉄道においては周辺地域と主要な都市)との連携を促進します。
東西連携軸	国道307号、主要地方道生駒井手線を東西連携軸に位置づけ、市内の東西間の交流を支えるとともに、周辺地域との連携を促進します。



※北陸新幹線の想定区域はR2(2020)年3月時点のものです。

【都市構造図】

3 地域別のまちづくりの方向性

北部、中部、南部の地域別まちづくりの方向性を以下に示します。

■ 地域

地域	将来のまちづくりの方向性
北部地域	JR松井山手駅周辺を北部地域の拠点とします。 農業集落と計画的に整備された住宅地が共生するとともに、本市の活性化に資する工業地を備えた、調和のとれた地域生活圏の形成を図ります。 新名神高速道路の開通による広域からのアクセス向上を生かし、産業立地を促進します。 北陸新幹線新駅設置を見据え、そのインパクトを市全体の活力に生かせるよう準備を進めます。
中部地域	近鉄新田辺駅及びJR京田辺駅周辺を中部地域の拠点とします。 中核拠点及び交流機能拠点においては、交通利便性を生かした商業、医療、公共サービス、文化拠点などの都市機能が集積するとともに、木津川沿いの豊かな農地、甘南備山や醍醐庵一休寺などのシンボリックな資源を生かし、交流を育む地域生活圏の形成を図ります。
南部地域	近鉄三山木駅及びJR三山木駅周辺を南部地域の拠点とします。 関西文化学術研究都市の一翼を担うにふさわしい良好な住宅地と同志社大学をはじめとする文化学術研究施設が立地するとともに、その北の玄関口にふさわしい魅力的な市街地と農業集落が調和した、表情豊かな地域生活圏の形成を図ります。



第4 目指すまちの実現に向けて

1 基本姿勢

本市は、今後も10年程度人口増加が見込まれることから、さらなる行政サービスの充実を進めるとともに、少子高齢化の進行や将来的な人口減少を見据え、複雑多様化する地域の課題を解決するため、次の基本姿勢*に基づきまちづくりを推進します。

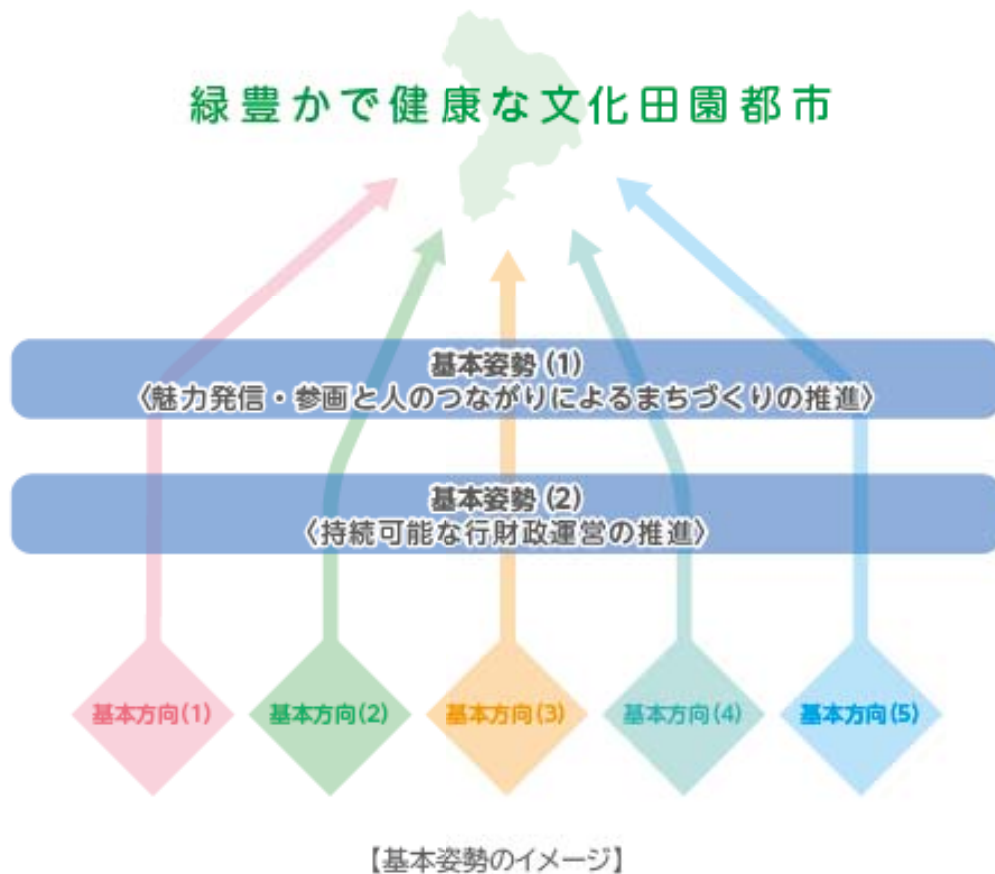
(1) 魅力発信・参画と人のつながりによるまちづくりの推進

- ・市内外へまちの魅力を発信しイメージを高めることにより、まちへの誇りと愛着を育むとともに、様々な分野での交流を促進することで、まちの活性化に取り組みます。
- ・市民、事業者、大学、区・自治会、NPO、各種団体などと行政が市民生活やまちづくりに関わる情報を共有し、連携を深めることで、それぞれの役割と責任を果たしながら、参画と協働によるまちづくりを進めます。
- ・「まちづくりは人づくり」を基本に、だれもが郷土愛をもって、まちづくりの主体的な担い手となり、人と人のつながりを育みながら、お互いに支え合うまちを目指します。
- ・広域的な課題解決のほか、本市の強みをさらに生かしていくため、関係自治体との連携を強化することにより、効率的・効果的な施策の実施に取り組みます。

*「基本姿勢」まちづくりの推進にあたって、すべての基本方向に共通する基本的な取組みの考え方を示すもの

(2) 持続可能な行財政運営の推進

- ・複雑多様化する市民ニーズに対応した行政サービスを効率的に提供するため、市民への説明責任を果たしながら、「選択と集中」、「スクラップ・アンド・ビルド*」の視点をより一層重視し、限られた財源の有効活用や、公共施設マネジメントを推進するなど、持続可能な行財政運営に取り組みます。
- ・事業者や大学などの民間活力やノウハウを活用し、効率的で質の高いまちづくりを進めます。
- ・行政内部においては、職員一人ひとりの能力を向上させるとともに、チームワークを強化し、行政サービスの向上に取り組みます。



*『スクラップ・アンド・ビルド』社会潮流や市民ニーズに対応した新たな事業を実施するにあたって、効果や必要性が低くなった既存の事業を縮小・廃止するなど見直しを加えるという考え方

2 基本方向

基本方向は、市民・中学生アンケートの結果などを踏まえ、最も関心の高い「安全・安心」と、都市像である「緑豊かで健康な文化田園都市」の実現に向け、「緑」「健康」「文化・教育」「田園都市」の5つの柱に分けて示します。

(1) 安全で心安らぐ優しいまち〈安全・安心〉

- ・地震や風水害などの自然災害に対し、防災・減災体制の強化や治水対策を推進するなど、災害に強いまちを目指します。
- ・市民、行政、警察との連携のもと、交通安全対策の推進や地域防犯対策を充実するなど、交通事故や犯罪のないまちを目指します。
- ・性別や障がいのあるなし、国籍などにとらわれず、お互いの人権を認め合い、多様性を受け入れながら、だれもが平和に安心して暮らせるまちを目指します。

(2) 緑に包まれた美しいまち〈緑〉

- ・木津川や甘南備山、まちなかの緑など、自然を守り育て、市民が自然にふれ合う機会を充実するなど、自然と共生し、豊かな自然環境を次世代につなぐまちを目指します。
- ・ごみの減量化や省エネルギー、新エネルギーの推進により地球温暖化防止と循環型社会の実現に貢献するとともに、良好な都市景観の形成やまちの美化活動を促進するなど、環境に配慮した美しいまちを目指します。

(3) いきいき健康で明るいまち〈健康〉

- ・市民が自ら健康づくりに取り組むとともに、支え合いによる地域の絆を育むなど、だれもがいつまでも健康で自分らしく生きられるまちを目指します。
- ・医療、介護、年金など、生活の基盤となる社会保障制度のもとに、安定した生活を営み安心して暮らせるまちを目指します。

(4) 子育てしやすく未来を育む文化薫るまち〈文化・教育〉

- ・子どもが生まれる前から子育てに寄り添い、仕事との両立を支援し、地域全体で子育てを支えるなど、安心して子どもを産み育てられ、すべての子どもが健やかに成長するまちを目指します。
- ・確かな学力と豊かな人間性、たくましく健やかな体を育むなど、質の高い教育により一人一人が輝く京田辺っ子が育つまちを目指します。
- ・市民が文化に気軽にふれ、活動できる機会を充実するなど、京田辺らしい文化を創造し未来へ継承する、文化の薫るまちを目指します。
- ・市民が学びやスポーツに参加する機会を充実するなど、だれもが生きがいをもって学び続けるまちを目指します。

(5) 活力にみちた便利で快適なまち〈田園都市〉

- ・自然と調和したコンパクトな都市構造と、道路網、鉄道網やバス路線のネットワークを充実するなど、だれもが便利に暮らせるまちを目指します。
- ・上下水道をはじめとした都市基盤の長寿命化など、将来にわたって、だれもが快適に暮らせるまちを目指します。
- ・地域の特性を生かして、農業、商業、工業、観光の活性化を図るとともに、各産業間の連携や企業立地を促進するなど、市民とのつながりのなかで、多様な働き方ができ、産業が持続的に発展するまちを目指します。

■ 総合計画の構成（全体）

